intelligence & investigation

情報と調査

速報・解説版

2015・4・5月合併

No.108

編集発行: 尾崎 浩一　ゼロイン編集部　http://www.zeroinjyoho.com/　2015年4月29日発行

CONTENTS

＜消費者問題レポート＞
急増する景表法違反摘発の実態
株式会社三貴における措置命令の検証
九重 貴昭
2頁

＜ロシア政経レポート＞
ロシア対独戦勝７０周年記念式典の見方
5月9日金正恩、中国ほか各国の立ち位置は…
山本秀樹
５頁

＜発掘レポート＞
中国 近・現代史に蘇る倭刀術の潮流
海を越え、伝承された日本刀術から見える、
もう一つの文化史
野村暁彦
７頁

＜アジア諸国レポート＞
比・ダバオの八木学園、ミンダナオ国際大で卒業式
新校舎落成も兼ねて・・・八木学園
坂内　正
13頁

見本誌・購読等の問合せはゼロイン編集部　http://www.zeroinjyoho.com/

＜消費者問題レポート＞

急増する景表法違反摘発の実態

株式会社三貴における措置命令の検証

消費者対応コンサルタント　九重 貴昭

※措置命令までの軌跡

2009(平成 21)年 9 月 1 日より景品表示法が消費者庁に移管されたが、景品表示法といえばすぐ、公正取引委員会が浮かぶ。景品表示法が消費者庁に移管されたことにより、公正取引委員会は消費者庁長官から景品表示法違反事件に係る調査権限の委任を受け、地方事務所等において、景品表示法違反事件の調査業務及び同法違反の疑いに関する情報の受付業務を行うと共に、同法に関する相談業務を行っている。

今回、検証する大手の宝飾品販売会社三貴は、創業者が 1965(昭和 40)年に宝石の卸事業からスタートし、宝石を大量加工して手頃な価格設定で「銀座ジュエリーマキ」「銀座じゅわいよ・くちゅーるマキ」の名で派手にテレビ広告に打って出た、高度成長期ということもあり、アパレル等も取扱い、店舗数も 1200 店となり、絶頂時売上げ約 1,850 億円、従業員数 8000 名となり、日の出の勢いで驀進していた。

勢いがあるあまり、傲慢ともいえる広告を出し問題を起こした過去がある。

「会員は表示価格の 90%割引」という広告を出して、公正取引委員会から独占禁止法「公正競争阻害表示」と認定され、1995(平成 7)年に排除命令を受けたのである。排除命令は現在の措置命令にあたる。

1997(平成 9)年以後、メインバンクの破綻、上場のための取引証券会社の廃業、それ以外にも労働問題等、何処にでもありがちなワンマン創業者の成功体験や経営姿勢に陰りが見え始め、景気の急減速による不採算店の閉鎖をするものの、売上げ不振に歯止めがかからず２度の民事再生法の申請をしましたが、そこに至るまでに売上げ減少のカバーとして、2002(平成 14)年アンチエイジングの健康食品やスキンケア商品の販売を店舗と通信販売で始め、2 度の経営破たん後、再建を目指していましたが上手く行かず、2015(平成 27)年 1 月現在の代表者に買収された。

それが、今回またもや不当表示を行い 2015(平成 27) ２月１０日措置命令が行われたのだ。

ところで、今回の広告表示を見たとき、なぜ当局は医薬品医療機器法(旧薬事法)で摘発しなかったかという疑問も生じます。

もし医薬品医療機器法が適用されたとすれば、第６６条(誇大広告)又は第６８条(承認前の医薬品等の広告の禁止)のどちらかと考えられる。

近年は第６６条違反で検挙の例は見なくなったが、第６８条による摘発は現在も見られる。
医薬品医療機器法の罰則は厳しく、２年以下の懲役若しくは２００万円以下の罰金又は併科、いずれも逮捕、収監されるが初犯であれば略式裁判により、会社と代表者に各２００万円、関係者２００万円以下の罰金ということになることが多い。
今回の不当表示は、がんに効果があると誤認させる表示であるのに、景品表示法の優良誤認に該当するということだが、医薬品医療機器法での摘発には至らなかった。
措置命令は消費者庁か設立されてより、平成２１年２件・２２年９件・２３年２５件・２４年３４件・２５年２８件(ホテル等の疑似表示があり景品表示法改正のきっかけとなった)・２６年３４件・２７年１６件(３月２０日現在)と増加傾向にある。
これ以外に指示が出されているが景品表示法(優良誤認・有利誤認)不当表示は業種に関わらないので幅広く監視されている。
この措置命令を受けると医薬品医療機器法のような懲役や罰金刑はないが、端的にいうと嘘でしたというような周知文を新聞紙上に掲載及びその他に表示し、消費者庁長官宛に「措置完了報告書」を提出しなければならない又、課徴金制度も新設されているのでそれが株式会社三貴に適用されたとしたら、売上１億３千万円に対し３％は徴収されることになる、どちらの法律が適用されても社会的な評価の低落は免れない又どちらの法律が出てくるかも予測はつかないこともあるので企業側にとってはやっかいである。

ここでは、株式会社三貴が措置命令を受けるに至ったことの検証をしてみたいと思う
。
※現場の検証
違反チラシの配布
2015(平成 26 年)2 月 15 日より 2015(平成 26 年)4 月 23 日までの２カ月間で日刊紙 33 紙(重複含)にチラシ１７５万１７５０部を配布して、清涼飲料水(プラチナビューティーウォーター)５８万本を販売し、１億３千万円を売上げていた。
2002(平成 14)年健康食品やスキンケア商品の販売をして１３年も経過しているのであるから、旧薬事法や景品表示法を知らなかったということは考えられないし、短期間に大量の違反チラシを配布したということは、短期間であれば目につきづらいからというような、急ぎ働きのような感じがする。又買収交渉中であったとしたら価格引き上げのため、売上げが必要ではなかったのだろうか。

※会社内の検証
１、　会社の組織図の中には、健康食品部という部署がみあたらない。
2002 年より健康食品を取扱っていたとすれば、すでに 13 年の歴史を持っているにないとすればなぜか。
２、　現社長は知っていたのか。
就任以前の行為でもあり、現社長は異業種であるため知識を求めるには無理がある、措置命令

で初めて知ったのではないだろうか。
３、当該広告の会議には、社長、役員、幹部は参加していたのか。
　　実行するにあたり印刷代、折込み料１枚１０円と仮定するとその経費は 1751 万 7500 円程度掛かるとしたら、一担当者では決定できないと思えるので幹部以上が参加して、承認しているものと思える。

４、　商品の当該広告を作成するにあたり、製造メーカーから提供された資料は会議で検証は行わなかったのか又法務の部署や専門家はいなかったのか。

　　☆メーカーが提供する資料はＢ＆Ｂ（ビジネス対ビジネス）であるのでより詳しい資料提供であったと思うが、三貴の表示広告はＢ＆Ｃ（ビジネス対クライアント）に告示するため、誇大広告や不当表示に抵触しないものに限定されるので、関連法令の知識を持った者によって違反を回避する必要がある。
　どこのメーカーでも当該広告は違反になるということ位は分るはずで
当該広告をメーカーに見せたとしたら、メーカー側から注意が出た可能性はある。
しかしロットが大きいのでそちらに魅力を感じたのか、その場にいた人しか分らないことだが、分っていながら協力をすると東京都では条例改正に伴い、メーカー側も不適正な取引方法を教えたりする者を「密接関係者」とし、立入り検査や報告徴収をさせられることになるので関係者は、注意が必要である。

　　※結論
　新事業として健康食品を取扱うというのであれば取扱い部署を設置し、責任者を置き、関連法令の知識のある従業員又は社外の専門家に依頼をすることで違反を防ぐことが大切だ、事後処理ではなく事前防止が肝要だ。
　医薬品医療機器法違反ではなく、景品表示法第 4 条第 2 項不実証広告規制により、不当表示の違法性が問われ、合理的根拠の資料提出が求められ、資料が認められなければ違反に該当し、処分されることになる。事業担当者は関連法令の知識を持ち、全員が遵法精神をしっかり持って取り組まなければ、リスクが高い事業となる。

●九重　貴昭
各種無店舗販売および業界団体運営に携わる。コンサルタントとして「特定商取引法」「景品表示法」「医薬品医療機器法」「社員教育」「消費者相談室」等の指導及び講演。
月刊誌「健康食品表示規制ニュース」に「景品表示法の基礎知識を学ぶ」を執筆中。

＜ロシア政経コラム＞

ロシア対独戦勝70周年記念式典の見方

5 月 9 日における金正恩、中国そのほか各国の立ち位置は…

国際政治ジャーナリスト　山本秀樹

５月９日、モスクワにおいて対独戦の勝利を祝う式典が開催される。今年は特に世界の注目がこの式典に集まっているが、それは何も今年が70周年の節目の年であるためだけではない。ウクライナ危機をめぐり米ロ関係が緊張する中、ロシアが国を挙げて実施するこの式典にどの国の指導者が出席し、どの国の指導者が欠席するか-、これが間違いなく各国を 米ロ両陣営に色分けする重要な指標となってくるためだ。

１０年前の60周年の際は、欧米を含む56の国および国際機関の首脳級が出席し、冷戦後の「新たな時代」を印象付けた。現在の米ロ関係からはおおよそ想像も付かないことであるが、赤の広場での式典の際、プーチンの横に座り笑みをたたえていたのは他ならぬブッシュであった。さらに、我が国の小泉元総理をはじめ、シュレイダーやシラク、ベルルスコーニなど当時の西側首脳がこぞって出席した。それに対して今回は、中国や旧ソ連諸国など約30の国や国際機関からの出席にとどまる見通しで、G7はボイコットに動いた。今後、どの国が米国主導の世界秩序を望み、また反対にどの国がこれに挑戦しようとしているのか-、我々は今回の式典を通 じて各国の立ち位置を理解することになる。

今回の式典が注目されるもう一つの理由は、金正恩が初外遊先としてロシアを選び、この式典に出席するとの情報が流れているためだ。“専門家”と呼ばれる人々がもっともらしい理由を述べ訪ロの可能性を論じてきたが、どうやら訪ロで間違いない。ロシア大統領府の外交担当大統領補佐官が「北朝鮮側との様々な接触を通して、金正恩がモスクワに来ることが確認された。我々は来ると約束したからには、この約束は守られると考えている」と金正恩の名前をじかに出して、彼の訪問日程を詰めていると述べた。また、駐韓ロシア大使も「我々は北朝鮮の指導者のモスクワ訪問を楽しみにしており、金正恩第1書記の記念式典への出席のほか、プ ーチン大統領との首脳会談が行われる可能性もある」と大統領補佐官の発言を確認した。

金正恩は2011年12月、北朝鮮の権力トップの座に就いたが、その後3年以上の月日が経過したにもかかわらず、自国から出たことがない。自宅で危険極まりない実験を続ける“引きこもり”を外に引っ張り出したということになれば、国際社会におけるロシア（プーチンと言った方がより妥当か）の存在はいやが上にも拡大する。

もう一つ今回の式典をめぐり注意したいことがある。第二次世界大戦勝利70周年を共同で祝うことで合意しているロシアと中国の動きについてである。中国5月９日の式典に関して、かなり早い段階から習近平出席を確認し、ロシアも9月３日中国で開かれる「抗日戦 争勝利記念日」へのプーチンの

出席をすでに確認している。このような動きを捉え、日本のメディアの中には、両国が歴史問題をめぐり“対日共闘”しているかのように報じる向きもあるが、このような見方は安直だ。ロシアが抱える深刻な歴史問題は欧米諸国との間にある。というのも、ウクライナやポーランドなどが中心となって、第二次世界大戦の勝利に対するソ連（ロシア）の貢献を過小評価し始めた。このような動きは、ウクライナ危機後、とりわけ顕著になっている。

第二次世界大戦で最大の犠牲者を出したロシアにとってこのことが我慢ならない。プーチンは今年１月、歴史問題に触れ、「敵対者たちが政治的野心のため、ロシアを抑え込むため、そして最終的に歴史を変えるために恥ずべき発言を行 っている。この厚顔無恥な嘘、欺瞞、歴史的事実の歪曲の流れに立ち向かわなければならない」と述べ、このような動きには断固抵抗する姿勢を示した。ロシアには中国とは別の、独自の歴史問題がある。このような事情を踏まえた上で、ロシアにとって今次式典がどのような意義を持つか、また、この問題をめぐる中国との連携にどのような価値があるかについて分析を行う必要があろう。

●山本秀樹

大学卒業後、ロシアに留学し、ロシアの内政・外交について研究した経験を持つ。在ロシア日本大使館，民間企業を経て、フリーに。現代ロシアに関する論文・レポートを民間の研究機関や、専門誌に寄稿する一方で、軍事、安全保障問題等にも関心を持ち、執筆活動を始めた。翻訳業にも従事している。

＜発掘レポート＞

中国 近・現代史に蘇る倭刀術の潮流

海を越え、伝承された日本刀術から見える、もう一つの文化史

フリーライター　野村暁彦

中国には倭寇が伝えた日本の刀術が今も伝わっている。このことを初めて知ったのは今から 30 数年前。当時はまだ実態がよく分かっていなかった中国武術に興味を持ち始め、中国武術研究の第一人者である松田隆智氏の著書を、片っ端から読み漁っていた頃だったと思う。16 世紀頃、明代の中国に、倭寇によって日本の剣術がもたらされ、それが苗刀という名で今も伝えられているのだという。

その後、通臂拳の郭瑞祥という武術家が伝える苗刀の映像を見ることができた。この中国河北省滄州に伝わる苗刀は、確かに刀の形は日本刀に近く、また中国武術としては珍しい両手持ちの刀術だった。しかし、走りながらダイナミックに刀を振るう姿はいかにも中国の刀術という感じで、日本の刀術という雰囲気ではなかった。

ところがこの映像を見てから程なくして、中国から台湾に伝わったという苗刀を習う機会を得た。四路苗刀という套路（型）で、韓慶堂という武術家が伝えたものである。　台湾出身の老師から螳螂拳や八極拳などの武術を学ぶ中で、初級の武器術として学んだのだが、実際に学んでみると、この四路苗刀は動作が非常にシンプルで、映像で見た滄州の苗刀とはかなり雰囲気が異なっていた。

中国武術に興味を持ち始めた頃は日本の武術にはあまり興味がなかったのだが、実際に中国武術を学び始めると、なぜか日本の武術にも沸々と興味が湧いてきてしまい、覗き見程度ではあるが、そちらにも少しずつ目を向けるようになっていった。すると自分が学んだ四路苗刀の姿勢や動作が、日本の数ある剣術流派の中でも柳生新陰流や駒川改心流など、いわゆる陰（影）流系の剣術に何となく似ているということが分かってきたのである。

明の武将である戚継光は、度重なる倭寇の襲来に悩まされ、何とかこれを打ち破ろうと苦心した。その成果が『紀效新書』という兵書に記されているが、そこに倭寇から入手したという『影流之目録』が収録されているのである。つまり 16 世紀の明の軍隊で、日本の影流剣術が研究されていたのである。こうなると俄然興味が湧いてくる。影流の始祖である愛洲移香斎は、1452 年に生まれ、1538 年に没したとされているから、年代的にも合っている。

当時の明の記録の中には倭寇の刀術に関する記述がいくつも遺されているが、鋭利な刀を手に突風のように攻め込んでくる倭寇に、明の兵士たちは散々な目に遭ったようである。また、このとき倭寇が遣っていた刀は、刀身が4尺近くもある長大なものだったと記されているので、これが事実だとすると、南北朝時代に盛んに作られたという大太刀が使用されたと考えられる。　大太刀を振るう倭寇

の前に、明軍の刀は無力だった。それどころか、当時から兵器の王とされていた槍でさえも、地を這うようにして駆け込んでくる倭寇の刀術にたちまち手元まで入られ、斬り殺されてしまったという。また当時の明軍には鳥銃（鉄砲）隊も存在したが、やはり一気に接近されると総崩れになってしまったようである。

明の兵士たちは倭寇の攻撃を胡蝶陣と呼んで恐れた。これは戦術的な陣形の名称ではなく、倭寇の集団が大太刀を振り上げると、鋭利に研ぎ上げられた刀身が陽光を反射して煌めき、あたかも胡蝶が舞うかのようだったところから名づけられたものである。胡蝶陣を目の当たりにした明の兵士たちは、たちまち戦意を喪失してしまったという。多少の誇張はあるかも知れないが、それほどに倭寇の刀術は明の兵士にとって脅威だったということである。

しかし恐れてばかりはいられない。何とか倭寇を討伐するために、戚継光は倭寇が遣う倭刀術を研究した。そして編み出したのが鴛鴦陣という陣形である。もちろん倭刀術そのものを取り入れるための研究も為されたが、やはり一朝一夕で倭寇に対抗し得るだけの技術を修得するのは困難と考え、まずは倭刀術を封じるための陣形を作り上げたのである。

鴛鴦陣には、未熟な兵士でも腕力さえあれば倭刀を止めることが可能な狼筅という特殊な武器が組み込まれた。狼筅は槍の一種だが、柄に使う竹の先端から3分の1から半分ぐらいは枝を払わず残したままにしてあり、細かい枝で倭刀を阻止することができるというものである。鴛鴦陣は、この狼筅や籐牌を先頭に、長槍、鎧耙などで構成された陣形である。これが見事に功を奏して、戚継光はついに倭寇を撃退することに成功した。

先に触れた『紀效新書』は、1560 年代、壮年期の戚継光によって著された兵書で、ここにも鴛鴦陣が掲載されている。しかし、この 18 巻から成る『紀效新書』には、倭刀や倭刀術に関する記述はほとんど見られない。倭刀術に関する研究成果が詳細に記載されているのは、18 巻本の刊行から 20 年以上の時を経て 1584 年に版行された、14 巻から成る改訂版の『紀效新書』である。

この 14 巻本には、長刀と腰刀という、倭刀もしくは倭刀に倣って作成された日本様式の、大小2種類の刀について、その製法や用法、訓練法などが掲載されている。倭寇から入手したという『影流之目録』が収録されているのも、この 14 巻本である。戚継光は入手した『影流之目録』を研究して辛酉刀法を創出したという。18 巻本を版行した後も戚継光は倭刀術を研究し、20 年以上の時を経て、改訂版として 14 巻本にその研究成果を盛り込んだのである。

この『影流之目録』は、影流の開祖である愛洲移香斎、もしくは二代目の愛洲小七郎の伝書であると考えられている。戚継光がどういった経緯でこの伝書を入手したのか、その詳細は不明だが、愛洲移香斎は伊勢や九州の水軍と繋がっていたため、倭寇とも無関係ではなかったと考えられる。倭寇の中に影流を学んだ者がいて、伝書の写しを所持していたという可能性は高い。

戚継光がここまで熱心に倭寇の刀術を研究したのには、単に倭刀と倭刀術が優れていただけでなく、当時の中国の刀術が花法（派手で見栄えはするが実用性のない技）に走り、実戦の場では既に使い物にならなくなっていたという事情がある。実用兵器としての刀と刀術を再び手に入れるために、戦場で驚異的な威力を発揮した倭寇の刀術を研究したのである。

武将である戚継光が創出した辛酉刀法は、倭刀術＝日本剣術を基に作られた軍隊武術である。しかし武術には、このような軍隊武術とは別に、民間人の間で行われる民間武術というカテゴリーが存在する。大雑把に言えば、軍隊武術が集団戦術のための技術が中心となっているのに対して、民間武術は個人戦を前提とした技術が中心となっている。現在、我々が一般的に“武術”と呼んでいるものも、基本的には民間武術に分類されるものである。

当時、高い実戦性が認識されていた倭刀術は、軍隊のみならず民間にも流入している。民間武術家の中にも、花法ばかりになってしまった従来の刀術を捨て、実用性を重んじた刀術を求める者が現れ始めたのである。　民間に伝わった倭刀術を代表する資料が、1621 年に程宗猷が著した『単刀法選』と、1644 年に呉殳が著した『単刀図説』である。

程宗猷は、倭人から日本剣術の真伝を伝授されたという浙江の劉雲峰に学んで、この『単刀法選』を著した。一方、呉殳の『単刀図説』は、やはり倭人から日本剣術を学んだという江蘇の石敬厳から伝えられたもののようである。

倭寇＝海賊というイメージがあるが、その実態は、血腥い略奪行為よりも、むしろ密貿易などを行っていた海洋民である。違法集団である以上、国としては排除すべき存在だったが、民間レベルでは商取引の相手として友好的な関係を築いていた。そういった関係性の中で、民間の武術家が倭寇から武術を学ぶ機会もあっただろう。劉雲峰や石敬厳も、こういった環境の中で日本剣術を学んだと考えられる。

また現存する愛洲影流の伝書を見ると、基本的には個人戦を想定した武術であり、その形態は軍隊武術ではなく民間武術である。それだけに、軍隊の司令官である戚継光は辛酉刀法を作る際、従来の倭刀術を、用兵術として軍隊に落とし込むために工夫する必要があった。対して民間武術家である劉雲峰や石敬厳は、さほど手を加えることなく倭刀術を受け入れることが可能だっただろう。ただし、彼らから学んだ程宗猷と呉殳の刀術は、どちらも日本式の刀を用いる双手刀術（両手遣いの刀術）でありながら、程の刀術は基本的に劉雲峰から学んだ刀術の法をそのまま伝えているのに対して、呉の刀術は石敬厳から学んだ刀術に、古来より伝わる剣術を融合させている。

1644 年、李自成の乱によって明が滅び、順王朝が建国されたが、それも翌年には清に滅ぼされ、清朝が成立した。騎馬民族である清の軍隊は弓馬を主体としたものだったため、両手で扱わなければならない長刀は馬上では扱いにくく、徐々に軍隊から姿を消していうことになる。こうして日本剣術

の流れを汲む倭刀術は、専ら民間武術として伝承されていくことになる。

清朝は満州民族による征服王朝であるため、漢民族による反乱の温床となりかねない民間武術を厳しく弾圧した。そのため、この時代の民間武術の実態を正確に記した記録は少なく、倭刀術が具体的にどのように伝承されていったのか、その詳細はよく分かっていない。また清代から現代に至るまで、中国刀術の主流を成すのは柳葉刀など身幅の広い湾刀を用いた片手遣いの刀術であり、双手刀術は少数派である。ただ、義和団の乱の様子を描いた絵の中に、両手遣いの刀を振るう義和団の兵士の姿が描かれているなど、双手刀術は民間武術家の間で確実に伝承されていたようである。

清朝が倒れ、民国時代になると、倭刀術は再び表舞台にその姿を現す。倭刀術を基とする双手刀術は、清代に游方僧から河北の楊氏へと伝えられたといわれ、さらに楊氏から河北滄州の黄林彪と謝晋汾に伝えられた。謝晋汾の伝を受け継いだ劉玉春と任相栄は、1920 年代初頭に北洋軍閥の曹錕に招聘され、河北保定の練兵場に設立された武術営の教練として双手刀術の指導に当たった。当時、双手刀はその形状が苗に似ているところから苗刀と呼ばれていたため、曹棍の武術営は苗刀営と呼ばれるようになった。

双手刀がいつ頃から苗刀と呼ばれるようになったのかは不明であるが、この苗刀営から苗刀の名が双手刀の名称として定着していったようである。　劉玉春から苗刀を学んだ者は多いが、特に著名なのは郭長生である。一方、黄林彪の伝は馬鳳図、馬英図らが受け継いでいる。また劉玉春は通臂拳、黄林彪は劈掛拳の伝承者であるため、現在でも河北に伝わる苗刀の多くは通臂拳（通背拳）や劈掛拳の兵器として伝わっているものが多い。

これらの苗刀は、套路（型）の構成は違えども、各々の技法は『単刀法選』と共通するところが多いため、程宗猷もしくは劉雲峰の流を汲むものと考えられているが、通臂拳や劈掛拳の身法によって行われるため、日本の剣術とは異なる独特の雰囲気を持っている。冒頭で触れた映像の中で苗刀を行っていた郭瑞祥は、謝氏の伝を受け継いだ郭長生の息子である。

1928 年、武術の研究と優秀な武術家の育成を目的として、中華民国の首都である南京に中央国術館が設立された。郭長生と馬英図も教練に任命され、苗刀が正課に採用された。郭長生と馬英図は、苗刀の教材として、それぞれが伝える謝氏の苗刀と黄氏の苗刀を融合し、二路苗刀という2本の套路から成る苗刀を作り上げた。

一方、1925 年に馮玉祥将軍の要請によって、馬鳳図を中心とした武術名家たちによる白刃戦術研究所が設立された。ここでは従来の武術の中から実用的な技法を抽出して、軍事訓練のための新たな教材が編纂されたが、馬鳳図は弟の馬英図とともに『破鋒八刀』と『白刃戦術教程』を編纂した。これらは大刀と歩ばれる刀を用いた中国式の軍刀術である。　ここで用いられる大刀は、身幅が広く、宋代から用いられていた手刀という刀に近い形をした典型的な中国刀だが、従来の手刀よりも柄が

長く作られている。本来、手刀を始めとする中国の刀術は、そのほとんどが刀を片手で扱うのだが、新たに考案された大刀は両手遣いの双手刀術で、その操法は馬鳳図、馬英図が黄林彪から学んだ双手刀術がベースとなっている。

日中戦争の初期、中国軍は銃火器が不足し、兵士も寄せ集めで構成されていて、装備もバラバラだった。これを何とか補うために組織されたのが、白刃戦術研究所だった。　白刃戦術研究所が開発した刀と刀術を受けて結成されたのが、北西軍の手槍（拳銃）隊である。彼らは全軍の中から選抜された屈強な兵士たちで、各自モーゼル拳銃と1把の大刀が支給された。しかし拳銃よりも大刀の方が目立つため、人々は彼らを手槍隊とは呼ばず、大刀隊と呼んだ。

第 29 軍による長城抗戦で、大刀隊は日本軍を相手に善戦し、最終的には防衛戦を破られて撤退したものの、中国国内ではその活躍が大いに称賛された。ただ新聞などに発表された大刀隊の戦果の中には、多分に誇張された、日本で言うところの“大本営発表”のようなものもあったという。
それはともかくとして、大刀隊は今なお抗日の象徴となっているようで、愛国教育の際には、「大鬼子们的头上砍去（大刀で鬼畜の頭を叩き斬れ）」という歌詞で始まる、大刀隊の大刀進行曲が歌われていたようだ。「鬼子」とは、もちろん「日本鬼子（鬼畜日本）」のことである。また毎日のように放映されている反日ドラマでは、日本兵が大刀でバッタバッタと斬り殺されている。16 世紀の明に伝わり、中国刀術の復興に大きく関わってきた日本剣術の末裔が、今や反日の象徴的存在となっているのである。

また南京中央国術館では、学員による教授班が軍事教練の一環として、兵士のための教材を作成するという使命を帯びていた。伝統的な武術は修得に年単位の期間を要するため、これらを基に、短期間の訓練で修得可能な、簡素で且つ実用的な武術を編纂したのである。そして、ここで作成された教材の中には苗刀も含まれていた。

中央国術館で正課として採用されていた二路苗刀は、通臂拳の郭長生と劈掛拳の馬英図によって編纂された套路で、刀を操作する際に独特の身法が用いられる。この身法を一朝一夕で修得するのは困難であるため、もっと基本的な身法によって刀を操作するような形に再編されたと考えられる。
政変とともに台湾に渡り、四路苗刀を伝えた韓慶堂は、この中央国術館の教授班に所属していた。中央国術館の第一期生で、優秀な成績を収めて主席で卒業している。当然、軍事教練の教材として編纂された苗刀は知っていただろうし、その編纂に直接関わっていた可能性も高い。つまり韓慶堂が台湾に伝えた四路苗刀は、ここで編纂された、軍事教練のための苗刀だと考えられる。そして、通臂、劈掛の身法を簡素な少林拳系の身法に改変した苗刀は、図らずも『単刀法選』や、延いては戦国末期の影流系の日本剣術に近い雰囲気を取り戻すことになったのである。

現在では、四路苗刀は台湾経由で香港にも伝わっているが、聞くところによると、香港で四路苗刀を学んでいる若者の中には、本当は日本の剣術を学びたいのだが、香港では学ぶことが難しいので代わりに苗刀を学んでいる者もいるという。苗刀の歴史と四路苗刀の由来を考えると、何とも皮肉な話である。

●野村暁彦

大学卒業後、アニメーターを経て武術、格闘技関連のビデオ製作等に携わる一方、1990 年より台湾出身の武術家蘇昱彰の学生となって中国武術を学ぶ。1995 年より中国武術専門誌「季刊武術」を中心に「月刊フルコンタクトKARATE」「月刊空手道」（いずれも福昌堂）の制作にライターとして参加。現在は「月刊秘伝」（BAB ジャパン）、学研パブリッシングの武術関連のムック、書籍等にて執筆。

＜アジア諸国レポート＞

比・ダバオの八木学園、ミンダナオ国際大で卒業式

新校舎落成も兼ねて・・・八木学園

坂内　正

昨年 2014 年 4 月、本誌 NO. 98 で、フィリピン・ミンダナオ島ダバオ市の八木学園とミンダナオ国際大学の卒業式（終業式）のことを紹介しました。あれから１年、今春も、それぞれ終業式と卒業式が行われました。

教育制度改革にあわせて新校舎へ

2005 年、わずか 8 名の幼稚園からスタートし、今や小学校も運営するまでに成長した八木学園の主宰者は、地方公務員を早期退職し、その退職金などを元手に進めてきた八木眞澄さん。以前、多くの支援者にも支えられて小学校舎を増設したことを本誌でも紹介しましたので記憶しておられる読者もおられるでしょう。

このたび、終業式に併せて、また新たに校舎を新設したのは、これまでの、ダバオ市郊外のトリルというところから車で 10 分ほどのバンカスという場所。１ヘクタールという広い土地を購入したのはフィリピン政府教育省の指導によるもの。現在のアキノ政権はさまざまな教育制度の改革を進めており、例えば、小学校を設置するには１ヘクタール以上の敷地が必要としたのです。

このほか、日本では 6・3・3・4 制といわれ、大学卒業時 22 歳というのが標準ですが、フィリピンでは 6・4・4 制で大学卒業時の年令が他の国よりも 2 年若い 20 歳です。これを国際的基準に合致させるべく新たに 2 年を加えて、6・4・2・4 制に変更しつつあります。これなども教育改革の一環です。

八木さんは言います。「幼稚園が何とか軌道にのったと思ったら、次は小学校も作ってほしいという父兄の要望があり、皆さんの支援でやっとの思いで小学校をスタートさせました。そうしたら次は国の政策。運営の面でもお金の面でも、ずい分悩みましたが、今さら後には引けないと思いきって決断しました。幸いその都度支援して下さる多くの皆さんのおかげでここまで来ました。」ご本人が「普通の都民、普通のおばさん」という通り、普段の八木さんは主婦業が中心。合い間に静岡の実家の茶摘みを手伝いするのに帰ったり、埼玉に住む３歳のお孫さんの子守りを手伝ったりといった忙しい毎日。そんな時でも「何があってもおかしくない年寄りが３人いるんですから携帯が手離せないんですよ」といいながらも、暗さや大変さはみじん

も感じさせません。確かに一見どこにでもいるおばさんのようですが、この辺りは「普通」ではないようです。

今や総園・児童数 168 名、教職員数 20 名の大世帯になった原動力をかい間見た感じです。

新校舎のサポーターは先達さん

終業式・卒園式と併せた新校舎の落成式にはこの八木さんの活動を支援し、日本から駆け付けた先達徳男（せんだつ　のりお）さんも出席して、テープカットを行いました。

先達さんは現在、都内や千葉県などで、介護施設を運営しています。集団就職で岩手県から上京、工場勤務の合い間に、夜間高校や夜間の美容学校に通学し、その後、美容師資格も取得したといいます。何だか「3 丁目の夕日」のような光景が浮かんできますが、この人にかかるとくったくがありません。「なぜ、美容師かっていうんでしょう。当時学歴不問で取得できる国家資格は運転免許、調理師、理・美容師の 3 つだけだったんですよ」

そして、美容師として 20 余年働いた後、以前からお年寄りのための仕事がしたいという思いが、介護保険のスタートと共に開花。ほどなくこの世界に移らせたのも自然のなりゆきだったのでしょう。現在はグループホーム 5 つを運営するかたわら、他の高齢者施設でお年寄りの散髪のボランティアを今も定期的に続けています。

晴れがましい席は苦手だという先達さんですが、新校舎落成式のテープカットに臨んだあと、「まあ、テープカットやヘアーカットなら給料カットや危ないリストカットよりはいいね」と持ち前のユーモアで周囲をなごませます。

実は、先達さんはもう１つ国家資格を持っています。合格率が 3 割前後という「ケアマネージャー（介護支援専門員）」です。学歴は不問ですが、医師、看護師、介護士、社会福祉士などの専門職以外の人が受験する場合は、介護に関する実務経験と弱者に寄り添うたっぷりの愛情が必須です。

自らは今も 1300ＣＣの中古車を運転しながら、彼が八木学園の支援に投じたお金は高級乗用車１台分に匹敵します。こうした点についても「車も女房も古くたって気にならない」と笑い飛ばします。

先達さんに介護の基礎から教え、自身も八木学園を支援してきた佐々木由恵日本社会事業大学教授も「先ちゃんは苦労してきた分だけ人一倍気配りができる」とほぼ同年代の「弟子」にエールを送ります。

新校舎のテープカットをする、八木さん（右）、先達さん（中央）。広瀬豊邦ＪＰＶＡ副会長

体育館は網代さんが寄贈

学校の設備として教室の他にどうしても不可欠なのが体育館。こちらをほぼ丸ごと寄贈したのは網代正孝さん。長く、日本フィリピンボランティア協会（ＪＰＶＡ）会長としてフィリピンとりわけダバオの日本人、日系人の支援に心血を注いできた人です。ＪＰＶＡ会長の役職こそ、昨年春に退き最高顧問になりましたが、第一線にあることに変わりはありません。今もダバオ市名誉市民、ミンダナオ国際大学名誉学長などの要職を兼ねており、日比の交流やダバオを語るうえでは欠かせない人です。

しかし、この日 3 月 26 日、網代さんは日本にいて式典には参列しませんでした。遠慮したのでは？との問いに対し「そんなことはありません。お彼岸はお寺にとって最も大切な時期の１つです。私の本業は延浄寺の住職ですからね。」と穏やかに笑いながら語ります。そして言葉を継いで「今年 3 月で、私も父が亡くなったのと同じ年齢になりました。そろそろ今後の道筋のことも考えなければなりません」とも言います。このあたりの語り口は宗教人というより、以前就いていた教師のようだ、とは八木さんの人物評です。

昨年の終業式はダバオ市内の貸しホールでしたが、今年は新装なったこの体育館で盛大に行われました。修了証等の授与の後の子供達のアトラクションもひときわ華やかで、バレエに加えて、フラダンスやヒップポップ系の踊りなども上手に披露されました。

吹き抜けの大きなドーム型体育館で終業式を迎えた八木学園の園児たち

ところで、今年 76 歳を迎えた網代さんは、今また新たな支援の活動を広げています。同じフィリピンですが、中部・パナイ島のイロイロでの慰霊碑修復や遺骨の改葬などです。ここでも第 2 次大戦時、多くの人が戦火に倒れたのです。ダバオに比べてあまり訪ねる人もないところですが、戦争といのちを語り継いでほしいと支援活動に取り組んでいるのです。

体育館を寄贈した網代さん

55 名（昨年の 1.5 倍）が卒業…ミンダナオ国際大学

昨年春、38 名（うち男子 6 名）の卒業生を送り出したミンダナオ国際大学（ＭＫＤ）ですが、今年 2015 年 3 月 25 日の卒業式では、昨年のほぼ 5 割増の 55 名（うち男子 11 名）が卒業証書を授与されました。例年せっかく苦労して入学しても、卒業までたどりつける学生の割合は約 3 割です。生活に追われて学費や交通費にまでまわるお金の余裕がない学生が少なくないからです。今年少し好転したのは、比較的好調なフィリピン経済や人手不足の日本などへの就労期待も背景にはありそうです。

大型スクリーンに卒業生一人ひとりの顔写真や専攻科目、取得した資格などが写し出されます。そのなかを少し誇らしげに笑顔を振りまきながら卒業証書を受領します。父兄が同伴というのはフィリピンスタイル、英語と日本語による司会進行というのはＭＫＤならではのこと。フィリピン人、日系人だけでなく現地の日系企業の人やロングステイ中の日本人、さらには日本からの来賓などが参列するというのも海外唯一の日系大学らしいユニークさです。

今年のＭＫＤ卒業生は 55 名

社事大生も参列

この卒業式には研修旅行でダバオを訪問中の日本社会事業大学の学生ら 15 名も参列しました。学生の一人は「始めての海外旅行で、海外の卒業式にまで参加できてすごく印象に残りました。特に親といっしょに登檀するというのは日本では見られないですし、その一方でスクリーンに写った角帽や女子学生の袴姿があでやかで日系大学なんだなあと思いました」とやや興奮気味に話していました。

〈文・写真〉　　Ｐｒｏｆｉｌｅ

坂内　正　（ ばんない　ただし ）

ファイナンシャルプランナー、総合旅行業務取扱管理者。　元政府系金融機関で中小企業金融を担当。　退職後、旅行会社の経営に携わり、４００回以上の渡航経験を持つ。ロングステイ詐欺疑惑など、主にシニアのリタイアメントライフをめぐる数々のレポートを著す。　著書に『年金＆ロングステイ　海外生活　海外年金生活は可能か？』（世界書院）

ミンダナオ国際大学客員教授　『情報と調査』編集委員